

2022年10月28日 修正箇所

付属書

付属書 番号	ページ	位置 (行など)	修正前	修正後
6-13	3	上から15行目	たとえば	例えば
6-13	6	表1，緩衝材真密度	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4-4.8）と間隙率より設定。	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4.4-8）と間隙率より設定。
6-13	10	式(19)	記載なし	ϵ^R ：廃棄体領域の間隙率[-]
6-13	12	表2，廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度	廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度 [m ³]	廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度 [kg/m ³]
6-13	12	表2，廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率 [-]
6-13	12	表2，緩衝材真密度	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4-4.8）と間隙率より設定。	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4.4-8）と間隙率より設定。
6-13	13	表3，廃棄体領域の体積	1.2×10 ⁴	1.2×10 ⁴ （深成岩類，先新第三紀堆積岩類），1.5×10 ⁴ （新第三紀堆積岩類）
6-13	13	表3，廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度	廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度 [m ³]	廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度 [kg/m ³]
6-13	13	表3，廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率 [-]
6-13	13	表3，緩衝材真密度	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4-4.8）と間隙率より設定。	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4.4-8）と間隙率より設定。
6-13	14	表4，廃棄体領域の体積	1.8×10 ⁴	1.2×10 ³ （深成岩類，先新第三紀堆積岩類），1.3×10 ³ （新第三紀堆積岩類）
6-13	14	表4，廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度	廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度 [m ³]	廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度 [kg/m ³]
6-13	14	表4，廃棄体パッケージ内および廃棄体パッケージ間の充填材の真密度	1.2×10 ³	2.6×10 ³
6-13	14	表4，廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率 [-]
6-13	14	表4，緩衝材真密度	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4-4.8）と間隙率より設定。	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4.4-8）と間隙率より設定。
6-13	15	表5，廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率 [-]
6-13	15	表5，緩衝材真密度	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4-4.8）と間隙率より設定。	乾燥密度1.6 Mg/m ³ （本編表4.4-8）と間隙率より設定。
6-13	16	下から13行目	示す通り	示すとおり
6-13	17	上から11行目	以下の通り	以下のとおり
6-13	17	下から9行目	及び	および
6-13	18	式(33)	記載なし	ϵ^R ：廃棄体領域の間隙率[-]
6-13	19	表6，廃棄体領域の体積	1.8×10 ³	1.8×10 ⁴

付属書 番号	ページ	位置 (行など)	修正前	修正後
6-13	20	表7, 廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率[-]
6-13	20	表8, 廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率	廃棄体領域の間隙率[-]
6-13	付B-9	付表B-9 タイトル	基本ケースにおける新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, 閉じ込め期間0 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール）	基本ケースにおける新第三紀堆積岩類のTRU等廃棄物（緩衝材設定なし：グループ3, グループ4L, <u>低CI濃度地下水</u> , 閉じ込め期間0年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール） <i>※読者の利便性向上のため変更</i>
6-13	付B-10	付表B-10 タイトル	基本ケースにおける新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, 閉じ込め期間300 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール）	基本ケースにおける新第三紀堆積岩類のTRU等廃棄物（緩衝材設定なし：グループ3, グループ4L, <u>低CI濃度地下水</u> , 閉じ込め期間300年, および高CI濃度地下水, 閉じ込め期間0年・300年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール） <i>※読者の利便性向上のため変更</i>
6-13	付B-14	付表B-14 タイトル	基本ケースにおける先新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, 閉じ込め期間0 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール）	基本ケースにおける先新第三紀堆積岩類のTRU等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, <u>低CI濃度地下水</u> , 閉じ込め期間0 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール） <i>※読者の利便性向上のため変更</i>
6-13	付B-15	付表B-15 タイトル	基本ケースにおける先新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, 閉じ込め期間300 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール）	基本ケースにおける先新第三紀堆積岩類のTRU等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, <u>低CI濃度地下水</u> , 閉じ込め期間300年, および高CI濃度地下水, 閉じ込め期間0年・300年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール） <i>※読者の利便性向上のため変更</i>
6-13	付B-24	付表B-24 タイトル	母岩の割れ目の連結性に関する不確実性ケースにおける新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, 閉じ込め期間0 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール）	母岩の割れ目の連結性に関する不確実性ケースにおける新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, <u>低CI濃度地下水</u> , 閉じ込め期間0 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール） <i>※読者の利便性向上のため変更</i>
6-13	付B-25	付表B-25 タイトル	母岩の割れ目の連結性に関する不確実性ケースにおける新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, 閉じ込め期間300 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール）	母岩の割れ目の連結性に関する不確実性ケースにおける新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, <u>低CI濃度地下水</u> , 閉じ込め期間300年, および高CI濃度地下水, 閉じ込め期間0年・300年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール） <i>※読者の利便性向上のため変更</i>
6-13	付B-29	付表B-29 タイトル	母岩の割れ目の連結性に関する不確実性ケースにおける先新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, 閉じ込め期間0 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール）	母岩の割れ目の連結性に関する不確実性ケースにおける先新第三紀堆積岩類のTRU 等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, <u>低CI濃度地下水</u> , 閉じ込め期間0 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール） <i>※読者の利便性向上のため変更</i>
6-13	付B-30	付表B-30 タイトル	母岩の割れ目の連結性に関する不確実性ケースにおける先新第三紀堆積岩類のTRU等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, 閉じ込め期間300 年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール）	母岩の割れ目の連結性に関する不確実性ケースにおける先新第三紀堆積岩類のTRU等廃棄物（緩衝材設置なし：グループ3, グループ4L, <u>低CI濃度地下水</u> , 閉じ込め期間300年, および高CI濃度地下水, 閉じ込め期間0年・300年）のマルチチャンネルモデルの透水量係数分布（ニアフィールドスケール） <i>※読者の利便性向上のため変更</i>

「包括的技術報告書」 誤記等 修正対応表

2022年9月22日 修正箇所

要約

章	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
	16	図 4	各シナリオのめやす線量を示す点線または領域がグラフ目盛りからずれている	各シナリオのめやす線量を示す点線または領域の位置を正しい目盛り位置に修正

2022年5月17日 修正箇所

概要編

章	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
	97	表中「核種移行解析上の取り扱い（基本ケースとの対比）」の列の下から15行目	ガラス固化 対	ガラス固化体
	107	下から13行目	6.2.6項 上 （1）	6.2.6項（1）

本編

章	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
5	i	上から4行目 （「5.1.1 安全評価シナリオの作成の考え方」のページ番号）	5- 1	5-2
6	iii	上から13行目	図6.4-25 先新第三紀堆積岩類の処分場に起因する線量と支配核種	図6.4-25 先新第三紀堆積岩類の処分場に起因する線量と支配核種（基本ケース）
6	iv	上から5行目	表6.1-4 安全評価に用いる対象核種と放射能インベントリ（TRU 等廃棄物） <u>（1/2）</u>	表6.1-4 安全評価に用いる対象核種と放射能インベントリ（TRU 等廃棄物）
6	iv	下から5行目	表6.4-1 ニアフィールドスケールにおける簡略化モデルに対する THMC 状態と 核種移行パラメータの設定 <u>（1/2）</u>	表6.4-1 ニアフィールドスケールにおける簡略化モデルに対する THMC 状態と 核種移行パラメータの設定
6	5	表外脚注の下から1行目	グループ 4H（ドラム缶） 上	グループ 4H（ドラム缶）
6	42	表中「シナリオで考慮すべき不確実性」の列の上から2行目	埋戻し 材間の	<u>埋め戻し</u> 材間の
6	47	上から4行目	取り付け 坑道	<u>取付</u> 坑道
6	61	下から7行目	セメント材料	セメント <u>系</u> 材料
6	66	表中「核種移行解析上の取り扱い」の列の下から10行目	ガラス固化 対	ガラス固化体
6	67	表中「核種移行解析上の取り扱い」列の構成要素「PEM容器」	フォントサイズ11pt	フォントサイズ10pt
6	67	表中「最も確からしい状態」列の構成要素「鋼製支保工」	埋戻し 材	<u>埋め戻し</u> 材
6	70	表中「最も確からしい状態」列の構成要素「緩衝材」下から20行目	吹付 コンクリート	<u>吹付け</u> コンクリート
6	70	表中「最も確からしい状態」列の構成要素「緩衝材」下から12行目	吹付 コンクリート	<u>吹付け</u> コンクリート
6	79	表中「核種移行解析上の取り扱い（基本ケースとの対比）」の列の上から9行目	オーバーバックや キャニスター	オーバーバックや <u>キャニスタ</u>

6	80	表中「核種移行解析上の取り扱い（基本ケースとの対比）」の列の下から16行目	ガラス固化 対	ガラス固化 体
6	96	下から3行目	まとめら て いる	まとめら れ ている
6	140	図の見出し	図6.4-25 先新第三紀堆積岩類の処分場に起因する線量と支配核種	図6.4-25 先新第三紀堆積岩類の処分場に起因する線量と支配核種（基本ケース）
7	41	上から13行目	行頭のインデントにずれ	行頭のインデントを修正
7	42	上から13行目	行頭のインデントにずれ	行頭のインデントを修正
7	46	上から13行目	「μ」のフォントがMS 明朝	「μ」のフォントをTimes New Romanに修正
7	46	上から17行目	「μ」のフォントがMS 明朝	「μ」のフォントをTimes New Romanに修正
7	46	上から21行目	「μ」のフォントがMS 明朝	「μ」のフォントをTimes New Romanに修正
7	60	上から2行目	行頭のインデントにずれ	行頭のインデントを修正
7	62	参考文献6	（2021年1月12日閲覧） 、	（2021年1月12日閲覧） 、
7	65	参考文献54, 55	著者名がすべて大文字	先頭文字以外を小文字に修正
7	65	参考文献55	P. Smith and F. Neall <u>eds.</u>	P. Smith and F. Neall (<u>eds.</u>)
7	66	参考文献56	文献タイトルがすべて大文字	先頭文字以外を小文字に修正
7	66	参考文献62	（2021年1月12日閲覧） 、	（2021年1月12日閲覧） 、
7	66	参考文献64 （修正後は参考文献63）	書誌情報の末尾とピリオドとの間に不要な空白あり	不要な空白を削除
7	—	参考文献63以降	参考文献49と63が重複	参考文献63を消去し、64以降の文献番号を1つつ繰り上げ

付属書

付属書 番号	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
3-14	4	下から8行目	新第三紀堆積岩類 の分布域における	花崗岩類 の分布域における
3-34	6	上から2行目	図 7	図 6
3-34	6	図の見出し	図 7 ベイズ法を用いた東北日本における火山の発生確率	図 6 ベイズ法を用いた東北日本における火山の発生確率
3-34	7	上から8行目	（表 1, 図 6 ）	（表 1, 図 7 ）
3-34	7	上から8行目	なお、図 6 中に四角で示した	なお、図 7 中に四角で示した
3-34	8	上から9行目	図 6	図 7
3-34	8	図の見出し	図 6 100万年間の火山の発生確率に基づくプロジェクト・リスク	図 7 100万年間の火山の発生確率に基づくプロジェクト・リスク
3-34	8	図 6 (修正後は図7)	地点名の文字の欠落： WC , EC	地点名の文字の欠落を修正： WCB /8, ECF /12

「包括的技術報告書」 誤記等 修正対応表

2021年10月28日 修正箇所

本編

章	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
2	11	上から1行目	数十万年オーダーで継続していること[23]	数十万年オーダーで継続していること[22]
3	20	上から4行目	<u>に</u> で述べたように	<u>で</u> 述べたように
4	17	表 4.2-3	後記の「本編第4章 表4.2-3の修正対応表」参照	後記の「本編第4章 表4.2-3の修正対応表」参照
6	26	下から4行目	右記の一文が脱落	各構成要素について、安全機能が期待される時間スケールを図 6.3-2に示す。
6	63	上から16行目	段落の最初で一文字下げが行われていない	段落の最初を一文字下げへ修正
6	136	下から1～3行目	また、C-14 が深成岩類の処分場全体の初期の線量に寄与しないのは、処分場スケールの母岩における核種移行距離が長く、 <u>この間に放射性崩壊によって十分減衰することによる。</u>	また、C-14 が深成岩類の処分場全体の初期の線量に寄与しないのは、処分場スケールの母岩における核種移行距離が長く、 <u>母岩基質へのマトリクス拡散などにより移行が遅延したことによる。</u>
6	161	図6.4-32	②の記載「噴出物（火山灰）として地表に堆積し、既存の土壌と均一に混合する。混合した土地で農作業従事者が生活して被ばくすることを想定」	②の記載「噴出物（火山灰）として地表に堆積し、 <u>地表の放射性核種を含まない既存の土壌と均一に混合する。</u> 混合した土地で農作業従事者が生活して被ばくすることを想定」
6	170	下から2行目と3行目の間 (修正後は下から3行目と4行目の間)	不要な改行あり	不要な改行を削除
6	付-24	図の見出し	付表 <u>6-10</u>	付表 <u>6-11</u>
7	ii	上から12行目	文字列（「表7.2-1」）の開始位置にずれ	文字列（「表7.2-1」）の開始位置のずれを修正
7	13	上から11～12行目	<u>溶接部の腐食に及ぼす影響に関する長期試験結果を用いて、その影響を考慮した溶接の品質管理方法について引き続き検討を進めている。</u>	<u>溶接欠陥が生じにくい溶接条件の最適化や、溶接技術に応じた溶接部の品質管理方法について引き続き検討を進めている。</u>
7	26	上から15行目と16行目の間	不要な改行あり	不要な改行を削除
7	26	上から17行目と18行目の間	不要な改行あり	不要な改行を削除
7	26	上から21行目と22行目の間	不要な改行あり	不要な改行を削除
7	29 (修正後は28ページ)	上から13～14行目	TRU等廃棄物処分場については処分坑道間に相当する体積とし、	TRU等廃棄物処分場については <u>処分場端部に位置する処分坑道</u> の間に相当する体積とし、
7	30 (修正後は29ページ)	下から9行目	「（図） 7.2-6」のフォントがMSゴシック	「（図） 7.2-6」のフォントをTimes New Romanに修正
7	30 (修正後は29ページ)	下から4行目	「（図） 7.2-6」のフォントがMSゴシック	「（図） 7.2-6」のフォントをTimes New Romanに修正
7	右記参照	右記参照	p.33の下から2行目に 「これらの事例や考え方については 付属書7-5にまとめている。」と記載	「これらの事例や考え方については 付属書7-5にまとめている。」の記載位置をp.31の上から11行目に修正
7	33 (修正後は32ページ)	下から17行目 (修正後は下から16行目)	緩衝材の安全機能	緩衝材 <u>や母岩</u> の安全機能

7	33 (修正後は 32ページ)	下から14行目 (修正後は下から13行目)	岩盤に作用したものの	<u>粘土鉱物を含む</u> 岩盤に作用したものの
7	34 (修正後は 33ページ)	下から8行目	先進第三紀	先新第三紀
7	67 (修正後は 66ページ)	上から5行目	OECE/NEA ホームページ	OECD/NEA ホームページ
7	67 (修正後は 66ページ)	最終行	OECE/NEA ホームページ	OECD/NEA ホームページ
7	68 (修正後は 67ページ)	上から3行目	OECE/NEA ホームページ	OECD/NEA ホームページ
用語集	21	上から2行目	中性代	中生代

付属書

付属書 番号	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
4-42	8	上から4行目と5行目の間	不要な改行あり	不要な改行を削除
4-42	10	上から6行目と7行目の間	不要な改行あり	不要な改行を削除
4-52	9	図14	後記の「付属書4-52 図14の修正対応表」参照	後記の「付属書4-52 図14の修正対応表」参照
4-64	19	上から1行目	縦置き・ブロック方式と横置き・PEM方式の恒常湧水量の比較および内訳を <u>図18</u> に示す。	縦置き・ブロック方式と横置き・PEM方式の恒常湧水量の比較および内訳を <u>図20</u> に示す。
4-64	20	表14	後記の「付属書4-64 修正対応」参照	後記の「付属書4-64 修正対応」参照
4-64	21	図22	後記の「付属書4-64 修正対応」参照	後記の「付属書4-64 修正対応」参照
4-64	22	表15	後記の「付属書4-64 修正対応」参照	後記の「付属書4-64 修正対応」参照
4-64	22	下から4行目	新第三紀堆積岩類モデルでは透水係数が小さいため、	先新第三紀堆積岩類モデルでは透水係数が小さいため、
4-64	23	表16	後記の「付属書4-64 修正対応」参照	後記の「付属書4-64 修正対応」参照
6-13	6	表1	[g/m ² /y]	[g/m ² /d]
6-13	6	表1	間隙水中の拡散係数[m ² /y]	間隙水中の拡散係数[m ² /s]
6-13	6	表1	付属書6-19参照。	実効拡散係数（付属書6-19）と間隙率より設定。
6-13	8	上から8行目	溶解度の分配において考慮する同位体存在比は <u>ガラス固化体</u> を	溶解度の分配において考慮する同位体存在比は <u>廃棄体</u> を
6-13	9	上から7行目	右記の一文が脱落	なお、考慮した結果、移流・分散は無視できるので、式（14）からは移流・分散は除外した。
6-13	17	下から10行目	式（31）では <u>緩衝材</u> 内側の廃棄体領域における	式（31）では <u>構造躯体</u> 内側の廃棄体領域における

6-13	17	下から8行目	右記の一文が脱落	なお，考慮した結果，移流・分散は無視できるので，式（31）からは移流・分散は除外した。
6-13	18	下から5行目	緩衝材 外側のEDZを通過する地下水流量を用いる	構造躯体外側のEDZを通過する地下水流量を用いる
6-13	18	式(38)	$V^M \frac{\partial A_{ij}^M}{\partial t} = V^R A_{ij}^R - V^M \lambda_{ij} A_{ij}^M + V^M \lambda_{IJ} A_{IJ}^M - Q C_{ij}^M$	$V^M \frac{\partial A_{ij}^M}{\partial t} = -SD_{pi}^M \frac{\partial C_{ij}^M}{\partial r} - V^M \lambda_{ij} A_{ij}^M + V^M \lambda_{IJ} A_{IJ}^M - Q C_{ij}^M$
6-13	22	式(43)	$R_n^m = 1 + \frac{\rho^m K d_n^m}{\theta^m}$	$R_n^m = 1 + \frac{\rho_d^m K d_n^m}{\theta^m}$
6-13	22	下から7行目 (修正後は下から6行目)	岩石基質部の乾燥密度 [kg/m] (=θ ^m ρ ^m)	岩石基質部の乾燥密度 [kg/m ³] (=(1-θ ^m)ρ ^m)
6-13	22	下から6行目 (修正後は下から5行目)	岩石基質部の真密度 [kg/ <u>m</u>]	岩石基質部の真密度 [kg/ <u>m</u> ³]
6-13	23	下から8行目	岩石基質部の乾燥密度[kg/m ³] (=θ ^p ρ ^p)	岩石基質部の乾燥密度[kg/m ³] (=(1-θ ^p)ρ ^p)
6-13	付A-5	上から1行目	2.3 <u>半径</u>	2.3 <u>構成要素のサイズ</u>
6-13	付A-5	上から2行目	EDZ流量の算出に当たって使用した <u>透水係数</u> とその設定根拠を	EDZ流量の算出に当たって使用した <u>構成要素のサイズ</u> とその設定根拠を
6-13	付A-8	上から1行目	3. EDZの算出結果	3. EDZ <u>流量</u> の算出結果
6-13	付C-1	付表C-1	後記の「付属書6-13 付表C-1の修正対応表」参照	後記の「付属書6-13 付表C-1の修正対応表」参照
6-27	1	図1	②の記載「噴出物（火山灰）として地表に堆積し，既存の土壌と均一に混合する。混合した土地で農作業従事者が生活して被ばくすることを想定」	②の記載「噴出物（火山灰）として地表に堆積し， <u>地表の放射性核種を含まない</u> 既存の土壌と均一に混合する。混合した土地で農作業従事者が生活して被ばくすることを想定」
6-27	5	表2のρの値	1.6×10 ⁻⁶ <u> </u>	1.6×10 ¹² <u> </u>
6-28	6	上から5行目	mol/m ² <u>y</u>	mol/m ² / <u>y</u>
6-28	6	上から15行目と16行目 (修正後は上から15行目)	mol/m ² <u>y</u>	mol/m ² / <u>y</u>
7-3	39	ヘッダー	不要なヘッダーあり	不要なヘッダーを削除

本編第4章 表 4.2-3 の修正対応表（赤字が修正箇所）

修正前（誤）

表 4.2-3 閉鎖前の安全性に関する安全機能と構成要素の関係（一般労働安全）

安全確保の基本概念	安全機能	構成要素
作業環境の維持	換気能力	坑道の換気経路，換気設備（冷房設備を含む）
	排水能力	坑道の排水経路，排水設備
	照明能力	坑道の照明設備
労働災害の発生・拡大の防止	防火対策	防火設備，消火設備
	坑道の力学的安定性	支保工
	そのほかの労働災害防止対策	落下・転倒防止装置，非常用貯水槽
緊急時の避難経路の確保	避難経路の確保	アクセス坑道（入気用立坑を避難経路とする），連絡坑道，緊急待避所，風門，通信・連絡設備

修正後（正）

表 4.2-3 閉鎖前の安全性に関する安全機能と構成要素の関係（一般労働安全）

安全確保の基本概念	安全機能		構成要素
労働災害防止	労働災害の発生・拡大の防止	防火対策	防火設備，消火設備
		坑道の力学的安定性	支保工
		そのほかの労働災害防止対策	落下・転倒防止装置，非常用貯水槽
	緊急時の避難経路の確保		アクセス坑道（入気用立坑を避難経路とする），連絡坑道，緊急待避所，風門，通信・連絡設備
作業環境維持	作業環境の維持	換気能力	坑道の換気経路，換気設備（冷房設備を含む）
		排水能力	坑道の排水経路，排水設備
		照明能力	坑道の照明設備

修正前（誤）

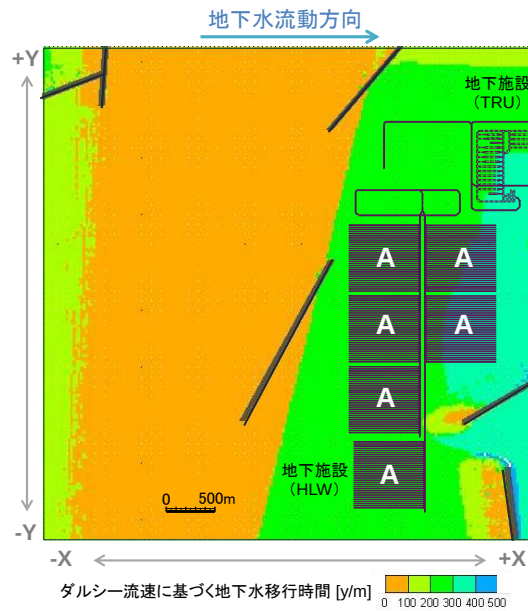


図 14 地下施設レイアウト（先新第三紀堆積岩類；横置き・PEM 方式）

※先新第三紀堆積岩類に対するレイアウト図を掲載すべきところを新第三紀堆積岩類に対するレイアウト図を掲載していた。

修正後（正）

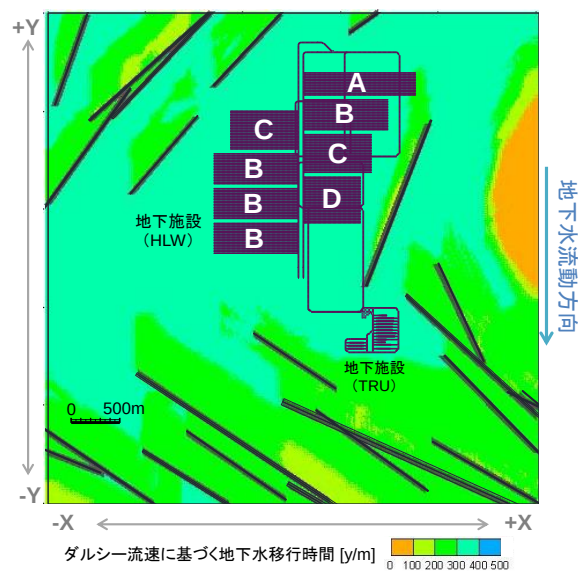


図 14 地下施設レイアウト（先新第三紀堆積岩類；横置き・PEM 方式）

付属書 4-64 表 14、表 15、表 16 及び図 22 の修正対応

(1) 表 14 の修正

修正前 (誤)

坑道		グラウト幅 [m]					備考
		0	2.0	3.0	4.0	5.0	
立坑		1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	グラウトは施工しない
斜坑		13.64	3.74	2.41	1.83	1.51	
水平坑道	処分坑道Gr.1	0.10	0.03	0.02	0.02	0.01	接続本数:1
	処分坑道Gr.2	0.25	0.13	0.09	0.07	0.06	接続本数:5
	処分坑道Gr.3	0.20	0.09	0.06	0.05	0.04	接続本数:3
	処分坑道Gr.4(L)ドラム缶	0.24	0.09	0.06	0.05	0.04	接続本数:2
	処分坑道Gr.4(L)角型容器	0.09	0.03	0.02	0.02	0.01	接続本数:1
	処分坑道Gr.4(H)ドラム缶	0.10	0.03	0.02	0.02	0.02	接続本数:1
	処分坑道Gr.4(H)ハル缶・インナーハレル	0.17	0.06	0.04	0.03	0.03	接続本数:2
	小計	1.12	0.42	0.29	0.22	0.19	
	取付坑道	0.71	0.11	0.10	0.08	0.07	
連絡坑道		2.39	0.44	0.36	0.31	0.27	
計(恒常湧水量)		19.33	6.18	4.63	3.91	3.51	
設計排水量		57.99	18.54	13.89	11.73	10.53	恒常湧水量×3

誤記①

(単位: m³/min)

誤記②

誤記①: 水平坑道のうち各処分坑道からの湧水量の表示値の合計と小計の表示値があっていなかった。処分坑道からの湧水量を小数点第二位で切り上げた数字で表示していたため、数字を丸めた分、合計値に差が出たことが原因。処分坑道からの湧水量を小数点以下第三位まで表示し、小計を再計算した。

誤記②: 上記の変更を行ったうえで、小計を再計算した結果、グラウト幅 5.0 m の小計の値、計(恒常湧水量)及び設計排水量の計算値も変更となった

修正後 (正)

(単位: m³/min)

坑道		グラウト幅 [m]					備考
		0	2.0	3.0	4.0	5.0	
立坑		1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	グラウトは施工しない
斜坑		13.64	3.74	2.41	1.83	1.51	
水平坑道	処分坑道Gr.1	0.094	0.026	0.017	0.013	0.010	接続本数:1
	処分坑道Gr.2	0.250	0.121	0.088	0.070	0.058	接続本数:5
	処分坑道Gr.3	0.199	0.082	0.057	0.045	0.037	接続本数:3
	処分坑道Gr.4(L)ドラム缶	0.232	0.084	0.057	0.044	0.036	接続本数:2
	処分坑道Gr.4(L)角型容器	0.086	0.022	0.014	0.011	0.009	接続本数:1
	処分坑道Gr.4(H)ドラム缶	0.095	0.028	0.018	0.013	0.011	接続本数:1
	処分坑道Gr.4(H)ハル缶・インナーハレル	0.162	0.054	0.036	0.028	0.023	接続本数:2
	小計	1.12	0.42	0.29	0.22	0.18	
	取付坑道	0.71	0.11	0.10	0.08	0.07	
連絡坑道		2.39	0.44	0.36	0.31	0.27	
計(恒常湧水量)		19.33	6.18	4.63	3.91	3.50	
設計排水量		57.99	18.54	13.89	11.73	10.50	恒常湧水量×3

(2) 表 15 の修正

修正前 (誤)

(単位: m³/min)

坑道		グラウト幅 [m]					備考
		0	2.0	3.0	4.0	5.0	
立坑		0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	グラウトは施工しない
斜坑		0.60	0.46	0.39	0.35	0.31	
水平坑道	処分坑道Gr.1	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	接続本数: 1
	処分坑道Gr.2	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	接続本数: 6
	処分坑道Gr.3	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	接続本数: 3
	処分坑道Gr.4(L)ドラム缶	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	接続本数: 3
	処分坑道Gr.4(L)角型容器	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	接続本数: 1
	処分坑道Gr.4(H)ドラム缶	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	接続本数: 1
	処分坑道Gr.4(H)ハル缶・インナーハレル	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	接続本数: 2
	小計	0.20	0.18	0.16	0.15	0.14	
	取付坑道	0.15	0.12	0.10	0.09	0.08	
連絡坑道		0.64	0.52	0.46	0.42	0.39	
計(恒常湧水量)		1.65	1.34	1.17	1.07	0.98	
設計排水量		4.95	4.02	3.51	3.21	2.94	恒常湧水量×3

誤記③: 水平坑道のうち各処分坑道からの湧水量の表示値の合計と小計の表示値があっていなかった。処分坑道からの湧水量を小数点第二位で切り上げた数字で表示していたため、数字を丸めた分、合計値に差が出たことが原因。処分坑道からの湧水量を小数点以下第三位まで表示し、小計を再計算した。

修正後 (正)

(単位: m³/min)

坑道		グラウト幅 [m]					備考
		0	2.0	3.0	4.0	5.0	
立坑		0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	グラウトは施工しない
斜坑		0.60	0.46	0.39	0.35	0.31	
水平坑道	処分坑道Gr.1	0.021	0.018	0.016	0.015	0.013	接続本数: 1
	処分坑道Gr.2	0.048	0.042	0.039	0.036	0.034	接続本数: 6
	処分坑道Gr.3	0.035	0.031	0.028	0.026	0.024	接続本数: 3
	処分坑道Gr.4(L)ドラム缶	0.032	0.028	0.025	0.023	0.022	接続本数: 3
	処分坑道Gr.4(L)角型容器	0.017	0.015	0.013	0.012	0.011	接続本数: 1
	処分坑道Gr.4(H)ドラム缶	0.028	0.024	0.021	0.019	0.018	接続本数: 1
	処分坑道Gr.4(H)ハル缶・インナーハレル	0.023	0.020	0.018	0.016	0.015	接続本数: 2
	小計	0.20	0.18	0.16	0.15	0.14	
	取付坑道	0.15	0.12	0.10	0.09	0.08	
連絡坑道		0.64	0.52	0.46	0.42	0.39	
計(恒常湧水量)		1.65	1.34	1.17	1.07	0.98	
設計排水量		4.95	4.02	3.51	3.21	2.94	恒常湧水量×3

(3) 表 16 の修正

修正前 (誤)

誤記④

(単位: m^3/min)

坑道		グラウト幅 [m]					備考
		0	2.0	3.0	4.0	5.0	
立坑		0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	グラウトは施工しない
斜坑		1.63	1.34	1.18	1.06	0.98	
水平坑道	処分坑道Gr.1	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	接続本数: 1
	処分坑道Gr.2	0.06	0.06	0.05	0.05	0.05	接続本数: 5
	処分坑道Gr.3	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	接続本数: 3
	処分坑道Gr.4(L)ドラム缶	0.06	0.05	0.05	0.04	0.04	接続本数: 2
	処分坑道Gr.4(L)角型容器	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	接続本数: 1
	処分坑道Gr.4(H)ドラム缶	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	接続本数: 1
	処分坑道Gr.4(H)ハル缶・インナーハレル	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	接続本数: 2
	小計	0.27	0.24	0.22	0.21	0.20	
	取付坑道	0.22	0.18	0.16	0.15	0.14	
連絡坑道		0.72	0.58	0.55	0.53	0.51	
計(恒常湧水量)		3.01	2.51	2.28	2.12	2.00	
設計排水量		9.03	7.53	6.84	6.36	6.00	恒常湧水量×3

誤記④: 水平坑道のうち各処分坑道からの湧水量の表示値の合計と小計の表示値があっていなかった。処分坑道からの湧水量を小数点第二位で切り上げた数字で表示していたため、数字を丸めた分、合計値に差が出たことが原因。処分坑道からの湧水量を小数点以下第三位まで表示し、小計を再計算した。

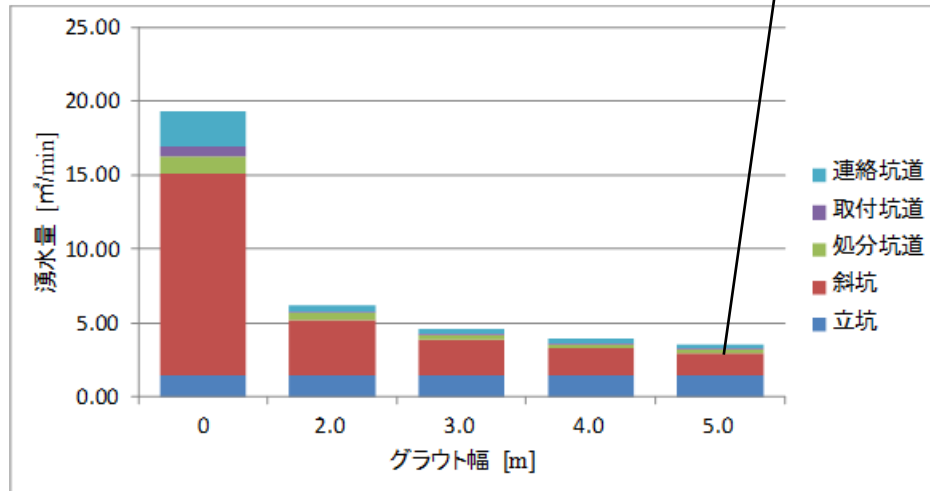
修正後 (正)

(単位: m^3/min)

坑道		グラウト幅 [m]					備考
		0	2.0	3.0	4.0	5.0	
立坑		0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	グラウトは施工しない
斜坑		1.63	1.34	1.18	1.06	0.98	
水平坑道	処分坑道Gr.1	0.028	0.025	0.023	0.021	0.020	接続本数: 1
	処分坑道Gr.2	0.055	0.051	0.047	0.045	0.043	接続本数: 5
	処分坑道Gr.3	0.044	0.040	0.037	0.035	0.033	接続本数: 3
	処分坑道Gr.4(L)ドラム缶	0.051	0.046	0.042	0.040	0.037	接続本数: 2
	処分坑道Gr.4(L)角型容器	0.026	0.023	0.020	0.019	0.018	接続本数: 1
	処分坑道Gr.4(H)ドラム缶	0.029	0.025	0.023	0.022	0.020	接続本数: 1
	処分坑道Gr.4(H)ハル缶・インナーハレル	0.036	0.032	0.029	0.027	0.026	接続本数: 2
	小計	0.27	0.24	0.22	0.21	0.20	
	取付坑道	0.22	0.18	0.16	0.15	0.14	
連絡坑道		0.72	0.58	0.55	0.53	0.51	
計(恒常湧水量)		3.01	2.51	2.28	2.12	2.00	
設計排水量		9.03	7.53	6.84	6.36	6.00	恒常湧水量×3

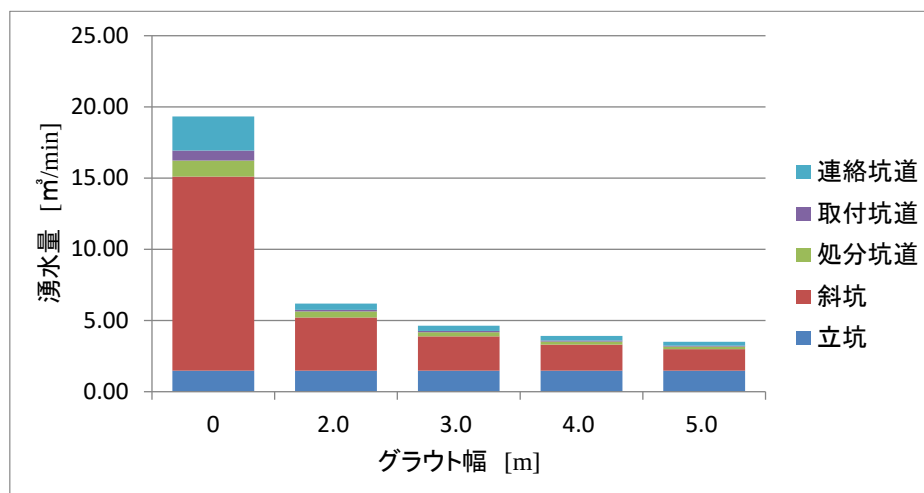
(4) 図 22 の修正

修正前 (誤)



誤記⑤：表 14 のグラウト幅 5.0 m の条件における処分坑道の小計値が異なっていたため、グラフの該当部を修正。

修正後 (正)



付属書 6-13 付表 C-1 の修正対応表 (赤字が修正箇所)

修正前 (誤)

付表 C-1 基本ケースにおける深成岩類処分場の処分場スケールのマルチチャンネルモデルの
透水量係数分布

No.	透水量係数(対数値) $\log_{10}T$	透水量係数 $T[m^2/s]$	チャンネル確率 p
1	-15.20	8.9E-16	0.0E+00
2	-14.90	1.8E-15	0.0E+00
3	-14.60	3.6E-15	0.0E+00
4	-14.30	7.1E-15	0.0E+00
5	-14.00	1.4E-14	2.2E-06
6	-13.70	2.8E-14	5.4E-05
7	-13.40	5.6E-14	0.0E+00
8	-13.10	1.1E-13	2.2E-05
9	-12.80	2.2E-13	2.4E-04
10	-12.50	4.5E-13	4.9E-04
11	-12.20	8.9E-13	8.2E-04
12	-11.90	1.8E-12	2.3E-03
13	-11.60	3.6E-12	2.1E-02
14	-11.30	7.1E-12	8.3E-03
15	-11.00	1.4E-11	1.1E-02
16	-10.70	2.8E-11	4.5E-02
17	-10.40	5.6E-11	4.5E-02
18	-10.10	1.1E-10	7.9E-02
19	-9.80	2.2E-10	1.2E-01
20	-9.50	4.5E-10	1.7E-01
21	-9.20	8.9E-10	2.2E-01
22	-8.90	1.8E-09	1.6E-01
23	-8.60	3.6E-09	6.0E-02
24	-8.30	7.1E-09	2.4E-02
25	-8.00	1.4E-08	1.1E-02
26	-7.70	2.8E-08	3.8E-03
27	-7.40	5.6E-08	2.0E-03
28	-7.10	1.1E-07	5.0E-04
29	-6.80	2.2E-07	3.4E-04
30	-6.50	4.5E-07	1.0E-05
31	-6.20	8.9E-07	0.0E+00
32	-5.90	1.8E-06	0.0E+00
33	-5.60	3.6E-06	0.0E+00
34	-5.30	7.1E-06	0.0E+00
35	-4.00	1.4E-05	0.0E+00
36	-3.68	2.8E-05	0.0E+00
37	-3.35	5.6E-05	0.0E+00
38	-3.03	1.1E-04	0.0E+00
39	-2.70	2.2E-04	0.0E+00
40	-2.38	4.5E-04	0.0E+00
41	-2.05	8.9E-04	0.0E+00

修正後（正）

付表 C-1 基本ケースにおける深成岩類処分場の処分場スケールのマルチチャンネルモデルの
透水量係数分布

No.	透水量係数(対数値) $\log_{10}T$	透水量係数 $T[m^2/s]$	チャンネル確率 p
1	-15.05	8.9E-16	0.0E+00
2	-14.75	1.8E-15	0.0E+00
3	-14.45	3.6E-15	0.0E+00
4	-14.15	7.1E-15	0.0E+00
5	-13.85	1.4E-14	2.2E-06
6	-13.55	2.8E-14	5.4E-05
7	-13.25	5.6E-14	0.0E+00
8	-12.95	1.1E-13	2.2E-05
9	-12.65	2.2E-13	2.4E-04
10	-12.35	4.5E-13	4.9E-04
11	-12.05	8.9E-13	8.2E-04
12	-11.75	1.8E-12	2.3E-03
13	-11.45	3.6E-12	2.1E-02
14	-11.15	7.1E-12	8.3E-03
15	-10.85	1.4E-11	1.1E-02
16	-10.55	2.8E-11	4.5E-02
17	-10.25	5.6E-11	4.5E-02
18	-9.95	1.1E-10	7.9E-02
19	-9.65	2.2E-10	1.2E-01
20	-9.35	4.5E-10	1.7E-01
21	-9.05	8.9E-10	2.2E-01
22	-8.75	1.8E-09	1.6E-01
23	-8.45	3.6E-09	6.0E-02
24	-8.15	7.1E-09	2.4E-02
25	-7.85	1.4E-08	1.1E-02
26	-7.55	2.8E-08	3.8E-03
27	-7.25	5.6E-08	2.0E-03
28	-6.95	1.1E-07	5.0E-04
29	-6.65	2.2E-07	3.4E-04
30	-6.35	4.5E-07	1.0E-05
31	-6.05	8.9E-07	0.0E+00
32	-5.75	1.8E-06	0.0E+00
33	-5.45	3.6E-06	0.0E+00
34	-5.15	7.1E-06	0.0E+00
35	-4.85	1.4E-05	0.0E+00
36	-4.55	2.8E-05	0.0E+00
37	-4.25	5.6E-05	0.0E+00
38	-3.95	1.1E-04	0.0E+00
39	-3.65	2.2E-04	0.0E+00
40	-3.35	4.5E-04	0.0E+00
41	-3.05	8.9E-04	0.0E+00

「包括的技術報告書」 誤記等 修正対応表

2021年6月3日 修正箇所

付属書

付属書 番号	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
4-26	9	3行目	<u>ガラス</u> 固化体が地下水と接触して放射性核種が溶出した際、溶存イオン濃度は地下水の水質に応じた溶解度で制限される。	<u>TRU等廃棄物</u> が地下水と接触して放射性核種が溶出した際、溶存イオン濃度は地下水の水質に応じた溶解度で制限される。
4-26	9	4行目	溶存イオン濃度が溶解度に達している際、 <u>ガラス</u> 固化体から溶出した放射性核種は固相として沈殿するが、廃棄体近傍に留まらず、コロイドとして人工バリア外部へ移行することが懸念される。	溶存イオン濃度が溶解度に達している際、 <u>TRU等廃棄物</u> から溶出した放射性核種は固相として沈殿するが、廃棄体近傍に留まらず、コロイドとして人工バリア外部へ移行することが懸念される。
6-24	20	表4	充填材中の実効拡散係数の値 低Cl ⁻ 濃度地下水：7×10 ⁻¹⁰ 高Cl ⁻ 濃度地下水：7×10 ⁻¹⁰ 第2次TRUレポート：8×10 ⁻¹⁰	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 低Cl ⁻ 濃度地下水：8×10 ⁻¹⁰ 高Cl ⁻ 濃度地下水：8×10 ⁻¹⁰ 第2次TRUレポート：8×10 ⁻¹⁰
6-24	22	表5	<u>d</u> 充填材中の実効拡散係数[m ² /s]	充填材中の実効拡散係数[m ² /s]
6-24	22	表5	充填材中の実効拡散係数の値 包括的技術報告書（基本ケース）： <u>7</u> ×10 ⁻¹⁰	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 包括的技術報告書（基本ケース）： <u>8</u> ×10 ⁻¹⁰
6-24	24	表6	充填材中の実効拡散係数の値 包括的技術報告書（基本ケース）： <u>7</u> ×10 ⁻¹⁰	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 包括的技術報告書（基本ケース）： <u>8</u> ×10 ⁻¹⁰
6-24	25	表7	充填材中の実効拡散係数の値 包括的技術報告書（基本ケース）： <u>7</u> ×10 ⁻¹⁰	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 包括的技術報告書（基本ケース）： <u>8</u> ×10 ⁻¹⁰
6-25	18	表8	充填材中の実効拡散係数の値 基本ケース（包括的技術報告書）： <u>5</u> ×10 ⁻¹⁰	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 基本ケース（包括的技術報告書）： <u>6</u> ×10 ⁻¹⁰
6-26	18	表8	充填材中の実効拡散係数の値 包括的技術報告書（基本ケース）： <u>5</u> ×10 ⁻¹⁰	充填材中の実効拡散係数の値を下記に修正 包括的技術報告書（基本ケース）： <u>8</u> ×10 ⁻¹⁰

「包括的技術報告書」 誤記等 修正対応表

2021年4月28日 修正箇所

概要編

章	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
	iv～v	目次	図表目次の落丁	図表目次を追加
	14	ページ一番下の段落	文章の両端が不揃い	文章を両端揃えに修正
	48	図14	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1100」と記載 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法の記載がない	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1000」に修正 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法「1450」を追記
	119	脚注47	「1.3節の図1参照」の「図1」のフォントサイズに誤り	「1.3節の図1参照」の「図1」のフォントサイズを修正
	122	上から3行目 (修正後は上から1行目)	「(2) 安全機能を有する処分場の設計と工学技術」のタイトルの前に改行の抜け	p.119の行間を調整することで7.2節をp.120の1行目からとし、「(2) 安全機能を有する処分場の設計と工学技術」がp.122の1行目となるように修正
	125	下から2行目 (修正後は下から5行目)	してしていく	していく
	133	上から16行目	参考文献番号の[10]に黄色のハイライトがある	参考文献番号の[10]の黄色のハイライトを削除
	144	下から4行目	箇条書きと「これらのことから…」の間の改行が抜けている	箇条書きと「これらのことから…」の間に改行を追加

本編

章	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
2	6	下から4行目	火災物密度流	火砕物密度流
4	21	表4.2-6	地表面の温度 t	地表面の温度 T_0
4	52	図4.4-21	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1100」と記載 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法の記載がない	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1000」に修正 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法「1450」を追記
6	27	図6.3 - 1	ふるまいに関する記述全体	「付属書6-11 ストーリーボードの作成」の当該図中の記述と整合させた
6	58	上から1行目	空白行あり	1行詰め
6	113	下から3行目	空白行あり	1行詰め
6	170	上から6行目	0.5行余分に空白行あり	0.5行詰め
6	172	上から1行目	空白行あり	1行詰め
6	177-196 (修正後は 176-195 ページ)	ページ番号	—	行詰めの影響によりページ番号を各1ページずつ繰り上げ
6	185 (修正後は 184ページ)	上から1行目	空白行あり	1行詰め

7	11	下から13行目	及び	および
7	15	下から4行目	するととも放射線	するとともに放射線
7	20	下から5行目	それれの	それぞれの
7	21	下から3行目	各種以降パラメータ	核種移行パラメータ
7	25	上から16行目	してしていく	していく
7	28	上から3行目	図7.2-4	図7.2-5
7	35	上から8行目	論してもの	論じたもの
7	48	上から12行目	としてのの	としての
7	49	上から5行目	OECE/NEA	OECD/NEA
7	52	上から5行目	改定	改訂
7	55	図7.4-1の図中下部	概要調査および精密調査地区及び建設地	概要調査および精密調査地区および建設地
7	56	上から13行目	地層や岩体、断層など	地層や岩体、断層など
7	59	図7.4-2の図中	「概要調査地区の選定と評価」 「概要調査地区を対象とした概念」	「精密調査地区の選定と評価」 「精密調査地区を対象とした概念」

付属書

付属書 番号	ページ	位置 (行など)	修正前（誤）	修正後（正）
付属書 2-3	2	下から6行目	① ③を計算するための	上記の①～③を計算するための
付属書 2-3	51	下から9行目	「閉鎖後長期の安全評価の対象として選定した45 個の核種について、30 年間と50 年間の貯蔵期間後におけるガラス固化体1 本あたりの放射能を算出した結果を表 14 に示す。また、核種移行解析で考慮する放射性核種の崩壊系列について図 11 に示す。」	「閉鎖後長期の安全評価の対象として選定した45個の核種について、30年間と50年間の貯蔵期間後におけるガラス固化体1本あたりの放射能を算出した結果を表 14に示す。閉鎖後長期の安全評価における基本シナリオや変動シナリオでは製造後の貯蔵期間を50年とし、製造から50年経過した時点の放射能インベントリからさらに1,000年経過後の放射能インベントリを計算して与える（本編6.4.1.(v)(b)①参照）。表 15に貯蔵期間終了後から1,000年経過したガラス固化体1本に含まれる閉鎖後長期の安全評価の対象となる核種の放射能を示す。また、核種移行解析で考慮する放射性核種の崩壊系列について図 11に示す。」
付属書 2-3	52	表14の見出し	安全評価に用いる対象核種と放射能インベントリ	安全評価に用いる対象核種と貯蔵期間終了時の放射能インベントリ
付属書 2-3	52	表14	表中「30年」「50年」と記載	「貯蔵期間30年」と「貯蔵期間50年」に修正
付属書 2-3	52	表の落丁	「表15 安全評価に用いる対象核種と貯蔵期間終了から1,000年後の放射能インベントリ（ガラス固化体）」の落丁	「表15 安全評価に用いる対象核種と貯蔵期間終了から1,000年後の放射能インベントリ（ガラス固化体）」の追記
付属書 2-3	52ページ以降	表番号	—	表の追加に伴い表番号を繰り下げ

付属書 2-3	53	下から14行目	「表 15 に核種移行解析に用いる核種と製造後25年の各グループの放射能インベントリ ⁶ を示した。」	「表 16に廃棄体パッケージAを対象とした閉鎖後長期の安全評価において対象となる核種移行解析に用いる核種と製造後25年の各グループの放射能インベントリ ⁶ を示した。また、廃棄体パッケージBを対象とした閉鎖後長期の安全評価では、製造後25年経過した時点での放射能インベントリからさらに300年経過後の放射能インベントリを用いる。表 17に製造後25年経過からさらに300年経過後の放射能インベントリを示す。」
付属書 2-3	54	表15の見出し	<u>表15</u> 安全評価に用いる対象核種と放射能インベントリ(TRU等廃棄物)	<u>表16</u> 安全評価に用いる対象核種と <u>廃棄体製造から25年後</u> の放射能インベントリ(TRU等廃棄物)
付属書 2-3	54	表の落丁	「表 17 安全評価に用いる対象核種と製造後25年経過からさらに300年経過後の放射能インベントリ (TRU等廃棄物)」の落丁	「表 17 安全評価に用いる対象核種と製造後25年経過からさらに300年経過後の放射能インベントリ (TRU等廃棄物)」の追記
付属書 3-32	3	上から9行目	約 <u>2,100</u> 件	約 <u>21,000</u> 件
付属書 3-32	9	上から9行目	図 <u>5</u>	図 <u>6</u>
付属書 3-32	16	上から11行目	<u>NH⁴⁺</u>	<u>NH₄⁺</u>
付属書 3-32	18	上から9行目	<u>を</u> では	では
付属書 3-32	19	上から2行目	メクタイト	<u>ス</u> メクタイト
付属書 3-32	23, 24 (修正後は 23ページ)	表 8	最下部の注釈 (※) が表のどこを指しているのか不明確	表中の対象箇所に注釈 (※) を明記
付属書 3-32	23, 24 (修正後は 23ページ)	表 8	最下部の注釈 (※) 中の読点に「、」を使用	最下部の注釈 (※) 中の読点を「, 」に修正
付属書 3-32	23, 24 (修正後は 23ページ)	表 8	1ページに集約可能な表が (1/2) , (2/2) として、2ページに掲載	セルの高さを変更して表を一つに集約し、(1/2) (2/2) を削除
付属書 3-32	25, 26 (修正後は 24ページ)	表 9	最下部の注釈 (※) が表のどこを指しているのか不明確	表中の対象箇所に注釈 (※) を明記
付属書 3-32	25, 26 (修正後は 24ページ)	表 9	最下部の注釈 (※) 中の読点に「、」を使用	最下部の注釈 (※) 中の読点を「, 」に修正
付属書 3-32	25, 26 (修正後は 24ページ)	表 9	1ページに集約可能な表が (1/2) , (2/2) として、2ページに掲載	セルの高さを変更して表を一つに集約し、(1/2) (2/2) を削除
付属書 3-32	27, 28 (修正後は 25ページ)	表 10	最下部の注釈 (※) が表のどこを指しているのか不明確	表中の対象箇所に注釈 (※) を明記

付属書 3-32	27, 28 (修正後は 25ページ)	表 10	最下部の注釈（※）中の読点に「、」を使用	最下部の注釈（※）中の読点を「，」に修正
付属書 3-32	27, 28 (修正後は 25ページ)	表 10	1ページに集約可能な表が（1/2），（2/2）として，2ページに掲載	セルの高さを変更して表を一つに集約し，（1/2）（2/2）を削除
付属書 3-32	29 (修正後は 27ページ)	上から19行目	最後の著者名の前に "and" の記載漏れ	最後の著者名の前に "and" を追記
付属書 3-32	29 (修正後は 27ページ)	下から10行目	文献ページの記載漏れ	文献のページを追記
付属書 3-32	30 (修正後は 28ページ)	上から8行目	2名の著者名の間の "and" の記載漏れ	2名の著者名の間に "and" を追記
付属書 3-32	30 (修正後は 28ページ)	上から22行目	文献2件の記載漏れ	文献2件（「加藤進，梶原義照（1986）」，「加藤進，安田善雄，西田英毅（2000）」）を追加
付属書 3-32	30 (修正後は 28ページ)	下から8～11行目	文献の記載順の誤り（「LaZerte, B.D. . . .」→「Laaksoharju, M. . . .」の順に記載）	文献の記載順の修正（「Laaksoharju, M. . . .」→「LaZerte, B.D. . . .」の順に修正）
付属書 3-32	30 (修正後は 28～29 ページ)	下から5行目 (修正後は28ページの 下から1行目)	文献3件の記載漏れ	文献3件（「松浪武雄（1993）」，「松浪武雄（1994）」，「宮崎哲郎， . . . （2007）」）を追加
付属書 3-32	31 (修正後は 29ページ)	上から10行目 (修正後は上から20行目)	文献1件の記載漏れ	文献1件（「奥山康子， . . . （2008）」）を追加
付属書 3-32	32 (修正後は 30ページ)	上から1行目 (修正後は上から13行目)	文献1件の記載漏れ	文献1件（「関陽児， . . . （2004）」）を追加
付属書 3-32	32 (修正後は 30ページ)	上から8行目 (修正後は下から20行目)	文献の記載内容の誤り（著者の重複） 最後の著者名の前に "and" の記載漏れ タイトルの記載の誤り（"isotopes. SDM-Site"）	重複著者（「Gimeno, M.」）を削除 最後の著者名の前に "and" を追記 タイトルの記載を修正（"isotopes; SDM-Site"）
付属書 3-32	32 (修正後は 30ページ)	下から11行目 (修正後は下から14行目)	最後の著者名の前に "and" の記載漏れ	最後の著者名の前に "and" を追記
付属書 3-32	32 (修正後は 30ページ)	下から6行目 (修正後は下から8行目)	文献1件の記載漏れ	文献1件（「吉田史郎， . . . （1991）」）を追加

付属書 4-21	1	図1	ハル缶・インナーバレルの図の輪郭が点線	ハル缶・インナーバレルの図の輪郭を実線に修正
付属書 4-21	2	3.2.1見出し	フォントがMS明朝	フォントをMSゴシックに修正
付属書 4-21	3	図3	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1100」と記載 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法を「1550」と記載	(a) ドラム缶用の充填材の高さ寸法を「890～1000」に修正 (b) キャニスタ用の充填材の高さ寸法を「1450」に修正
付属書 4-21	3 (修正後は 4ページ)	3.2.2見出し	フォントがMS明朝	フォントをMSゴシックに修正
付属書 4-21	4	3.2.3見出し	フォントがMS明朝	フォントをMSゴシックに修正
付属書 4-21	5	下から1行目	・廃棄体パッケージBのモルタルは、保守的に蓋との隙間なく充填されていると仮定した。	削除
付属書 4-35	3～12	全般	強度、応力、圧力の単位にN/mm ² ，kN/m ² を使用	単位をPaに統一（MPa，kPaを使用）
付属書 4-55	1 (修正後は 2ページ)	図1	図1中の表と図が別ページに跨がっている	表と図を同一ページに整理
付属書 6-1	21	式（3-1）	第2項のfの添え字のiとjが逆（「f _{ji} 」）	第2項のfの添え字のiとjの並びを「f _{ij} 」に修正
付属書 6-1	63	表22のキャプション	GBI 河川	GBI 深井戸
付属書 6-14	7	図8	XZ断面とYZ断面の図の配置が逆	XZ断面とYZ断面の図の配置を修正
付属書 6-14	30	図38	XZ断面とYZ断面の図の配置が逆	XZ断面とYZ断面の図の配置を修正
付属書 6-14	42	図61	YZ断面の図がほかの図より大きい	他の図とサイズを合わせた
付属書 6-14	159	図191	XY，YZ，XZ平面投影図の配置に誤り	配置を修正した
付属書 6-14	165	図193	XY，YZ，XZ平面投影図の配置に誤り	配置を修正した
付属書 6-14	170	図195	XY，YZ，XZ平面投影図の配置に誤り	配置を修正した